

## 石山寺法輪院の聖教目録

歴史研究室

聖教典籍を数多く伝来している寺院においては、その法流を受け継ぎ、学び、そしてさらに後世の代に伝えていくために、その時代時代における学僧の真摯な存在がある。それらの学僧は、当然のこと著述や注釈などでその見解を明らかにする。しかし、それとともにその法流の教えを伝える聖教典籍の相承に重きを置く。そして多くの場合、自坊蔵書の目録を作成する。石山寺においても同様であって、各時代の蔵書目録が現存する。例えば、平安中期、石山寺の基を築いた淳祐の著作である薫聖教については淳祐自ら認めた「聖教目録（薫聖教61号）」が現存し、また建武2年に作成された三巻本の目録とそれを暦応2年守遍が書写した目録の存在が、江戸時代になってから書写された各種の薫聖教目録からしられる。それらの薫聖教の目録として、明暦元年写「聖教目録（薫聖教62号）」、江戸中期写「普賢院筆跡聖教目録（寺誌函17号）」、江戸末期写「普賢院筆跡句聖教建武目録（寺誌函15号）」などがある。石山寺にとり、法流を伝える最も大切な聖教である薫聖教であるから当然であるともいえるが、それ以外の聖教群についても各種の目録が各時代に作成されていて、法流の研鑽に取り組む学僧の姿が偲ばれる。

ところで、石山寺山内の聖教群のうち、現在、深密蔵聖教と称されている聖教群は、大正時代に山内各子院に分散していたものが、本坊に取り集められたもの〔年報1991〕であり、明治まで各院家での所蔵状況が今一つ判然としない。そこで、子院の一つである密蔵院の目録を紹介したことがある〔年報1993〕。その目録と経箱墨書銘により、現深密蔵聖教箱第1函～第122函のうち、密蔵院伝来経箱がどれに当たるかがほぼ判明しつつある。そこで今回は子院の一つである法輪院関係の聖教目録を紹介したい。この目録は、聖教の研究書写のための貸借や移動についての書き入れが多く、その分についてすべて翻字すると煩雑となるため、当初書写分と思われる部分につき紹介する。また、略字・異体字の類は概ね常用字体にした。

ところで現在の深密蔵聖教箱では、その第9、10、12～14、36、37、43～47、64、68、71、72、76、84、87、92函には、「聖教二十ノ内／明治三庚午年十月新調／法輪院 尊信」と墨書銘があり、明治初年には法輪院聖教は、これらの経箱に収納されていたであろう。ここには、尊信作成の目録のうち、第八と第九を除くほかを収録したが、それと『石山寺の研究 深密蔵聖教篇上』収録の深密蔵聖教の現状と対照していくと、例えば、翻字した史料の第一の伝法灌頂／結縁灌頂では尊信の伝法灌頂三昧耶戒私等四巻は深密蔵聖教第36函24号〔1〕～〔4〕、浄信の同（結縁灌頂乞戒次第）は第36函44号、また寛隆入道御震筆伝法灌頂作法と真乗院僧正孝宥の伝法灌頂護摩用意私は深密蔵聖教第37函20号（1）と（2）のように、第37函や第38函中にみられる。また、第四の作法部神道方では、隆尋の骨路作法は第45函8号、順宥の観内古摩は第64函53号、甚信と宥円の出家略作法が第92函の1、2号に当り、版本の二時食作法は第122函61号に当り、第64函には他にも該当しそうなものがみられる。第十尊法では、隆尋の荒神供次第が第76函17号に当たる他、第76函に数点みられ、上記の法輪院墨書在銘経箱中にこの法輪院仮目録所載の書目が存在することが確認できるのである。また、第四の宥応の古摩支分は、その法輪院本の現物は第99函20号（1）に存在するが、それをさらに明王院で書写され、その本が第91函7号である。このように、現在は混在してその伝来を明確にしない聖教類が本来どういうグループで伝来したかということを明らかにするため、本史料のごとき目録類を翻字し、さらにデータベース化することは、現在の段階での典籍文書目録を作成する作業と関連し、基礎的作業として継続していく必要があると考える。

（綾村 宏）



南州北州中天兆天	宥庇	同口決 賢證上人	尊信	伝供加持作法	実淳
梵字異形	同			〔梵字□□〕月輪觀法	宥庇
神分結願作法一包	尊信	第四 作法部 神道方		二時食作法二紙	同
十八道私注 御流	同	無常呪願作法		施食作法	良賢
四度私注 尊賢	同	觀内古摩	順宥	略念誦	順宥／宥庇
隆嚴宥庇小折紙	範順	二時食作法	印本	伝授作法三紙	隆尋
十八道類纂 尊賢		抱瘡守護	宥庇	光明具口折紙	順宥
悉曇小折紙		天龍八部讚	甚信	略名	隆尋
行中參堂 數紙		出家略作法	有圓	骨路草事	順宥
戒入堂參堂次第	淨信	同	嚴長	五義分	同
八方天神供次第	尊遍	五座作法	濟豪	略施餓鬼	宥庇
同	同	同	隆尋	〔梵字□□□□□〕	同
同 除之	尊賢	抱病加事	同	入棺作法	宥庇
同 除之	信紹	靈氣着大事	順宥	閉眼大事	宥庇
十二天神供 保	隆尋	仁王經次第 西院流	覺圓	古摩支分	一帖
神供口決	宥庇	多聞天道場觀 同	同	護身法靈供生飲施餓鬼	嚴長
神供法	同	如意輪道場觀 同	同	小作法集	一結
神供次第 広保	有智	入我々入觀 同	同	神道方	
神供略私記	同	如法愛染王〔梵字□□□〕二帖	同		
八方天神供二帖	隆尋	五色	同	第五 保流諸次第	範順
同 広保		石塔開眼	禪證	深秘抄三帖	宥庇
		鈴作法	順宥	成就院七卷抄	宥庇
		南草	順宥	六帖重書六卷	
第三 沢見沢抄	隆尋	文殊夜叉二帖	順宥	八結八帖	宥庇
沢見六卷 覚成	同	同	尊賢	理趣經〔梵字□□□〕	順宥
甲乙沢見	宥庇	歡喜団支度	順宥	保流具書目六 一音坊	尊信
沢秘	尊賢	靈供作法 明恵上人	順宥	諸流伝受記 一音坊	
沢秘十卷 覚成	範順	開眼供養作法詞集 三帖	同		

第六 園城寺

護摩抄四帖  
金剛界八卷次第  
同四卷次第  
古藏四卷次第  
右四部明王院所藏印有之、借用歟  
到來歟可勘、先ヨリ此箱之中有之、  
恐借用歟、

濟豪

御影供祭文  
盧舍那合殺  
理趣法則

有応  
濟仁入道／御宸筆  
朝意

五大尊供二帖  
仙洞廻御修法用意  
後七日記 寛文三年

有応  
甚信

法則集

同

法則集并表白

同

同万（梵字□□）新写供養次第

順有

同

同

印本法則集五帖

良賢

後七日念誦頭

同

同

同

万供次第

同

同用書一結

有応

同

同

御説經導師并散花対揚磐次第

範順

東寺拝堂次第

有応

同

同

八講講師問者散対唄次第

同

十二天供

有応

同

同

守恕親王得度記

順有

御請来目錄

有応

第七 法会部

理趣三昧法則

範順

大黒天講式

同

第八 諸本類

御影供行法次第 胎金

同

觀音講式

範順

密嚴經第一

朗

大御室御忌日講師作法

有珍

如意輪散花二卷

隆嚴／隆応

（中略）

大般若法則

淨信

觀音院祭文

有応

第九 古次第類

〔梵字□□□〕法則

尊賢

牛玉加持 広流

順有

密嚴經第一

朗

修正会初夜法則

有応

大黒天供 西流 二帖

有応／淨信

（中略）

同

秀瑜

同

順有

第十 尊法

仁和寺南勝院僧正

有応

同表白

隆尋

仁王經二部

尊遍

大般若導師

順有

三十二相

淨信

（中略）

修正初夜法師

隆尋

〔梵字□□□〕經博士付

範順

瑠璃光如来次第

尊遍

法則集

融遍

觀音講式次第第二帖

有応

追々增加密藏院聖教／可寄者也

尊遍

修正神分次第

範順

盧舍那合殺

尊賢

右法輪院所藏聖教合／十箱今度改之如目錄

尊遍

〔梵字□□□〕法則

嚴長

同散花対揚

寛祐

万延元年六月下旬

尊信（花押）

正五九月御祈次第

尊信

大般若散花対揚

隆尋

〔梵字□□□〕仏子

尊信（花押）

仏名会法則

秀瑜

青雲院忌日表白進善表白

隆尋

〔梵字□□□〕

尊信（花押）

仁和寺御得度記一帙

一如

仁王經作法

隆尋

〔梵字□□□〕

尊信（花押）

法則集一帖

一如

已下御修法

隆尋

〔梵字□□□〕

尊信（花押）

仏説八名經博士付

一如

已下御修法

隆尋

〔梵字□□□〕

尊信（花押）